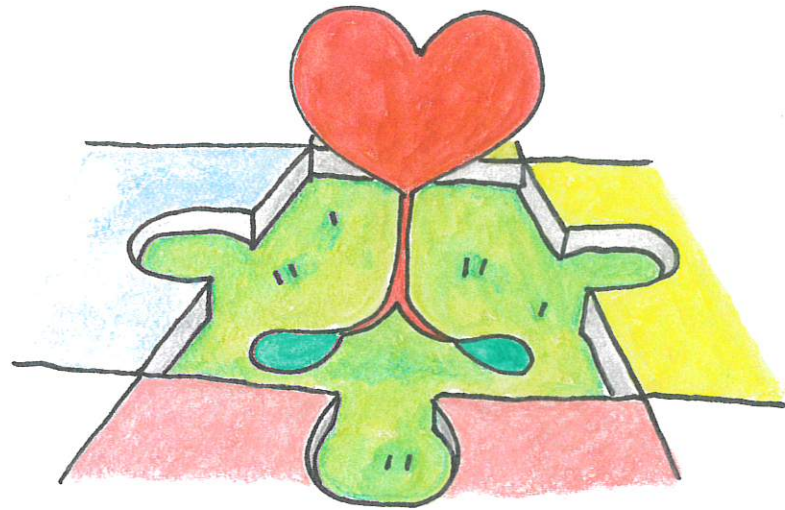
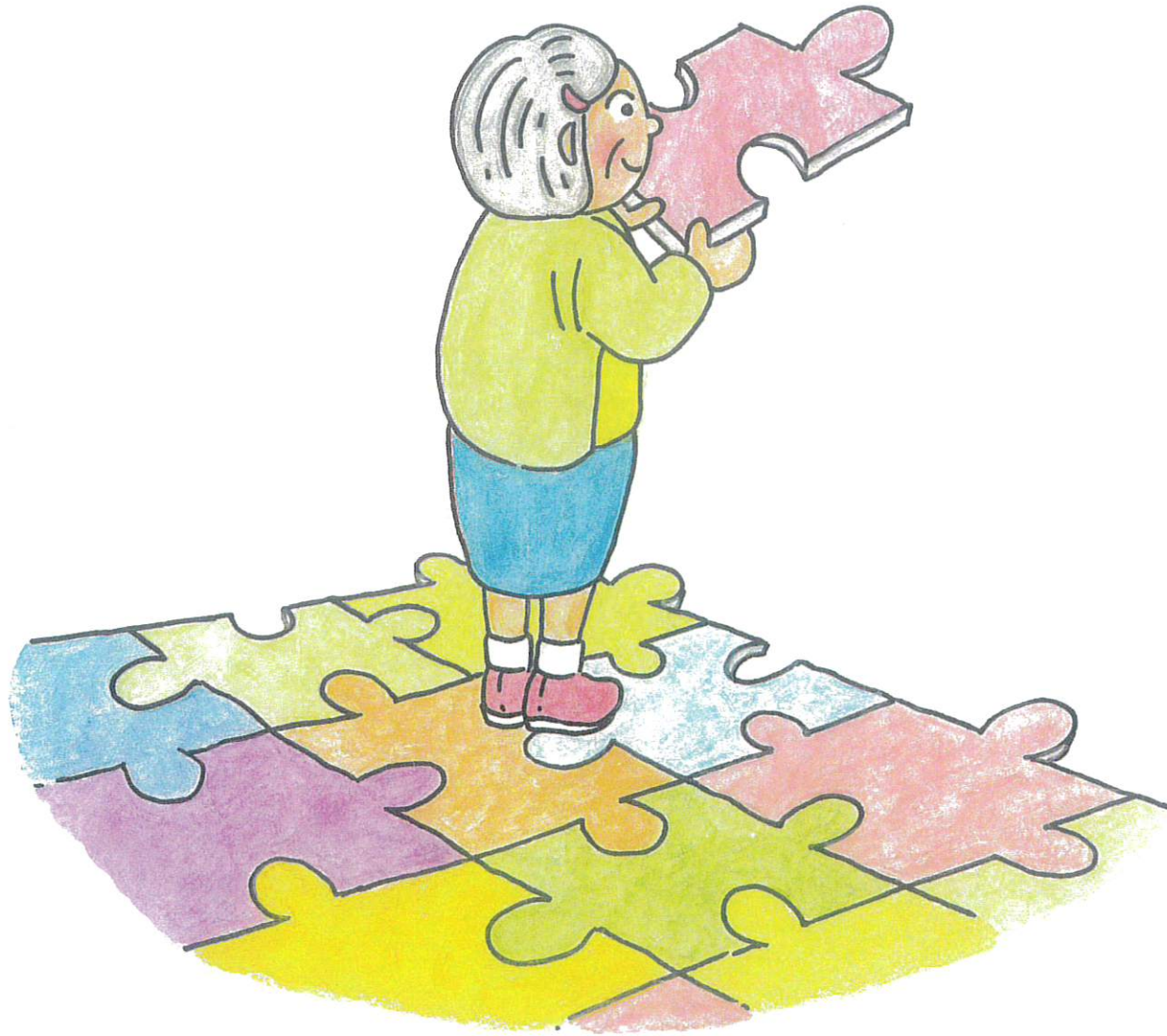


いっしょにあるく



さくえ うえの みえこ





わたし、
これまで「ずうっと」
がんばって 生きてきました。

いろんなこと「じぶん」で「きめて」
「じぶん」のみちも あるいてきました。

これからも あるいていけると しんじて いました。



だけど

このごろ すこし おかしいのです。

あるいて いくみちが

きゅうに

みえなくなったり…。



いま、さっき
あるいてきた みちが

ふっ と
きえてしまったり…。

それは まるで…



あ

こな きもち



いろんなことが

わからなくなる

できていたことが

できなくなる

こんなはずじゃない

がんばってきた わたし...!!



そんなじぶんを みとめたくなくて
ひっそりになって
わからない ことを
うめようとします。

そのときのかおは ぶんあんで
ちょっと おこっているように 見えるかもしれません。



まちがって いるかも...?

と

ほんとうは じぶんでも かんじています。

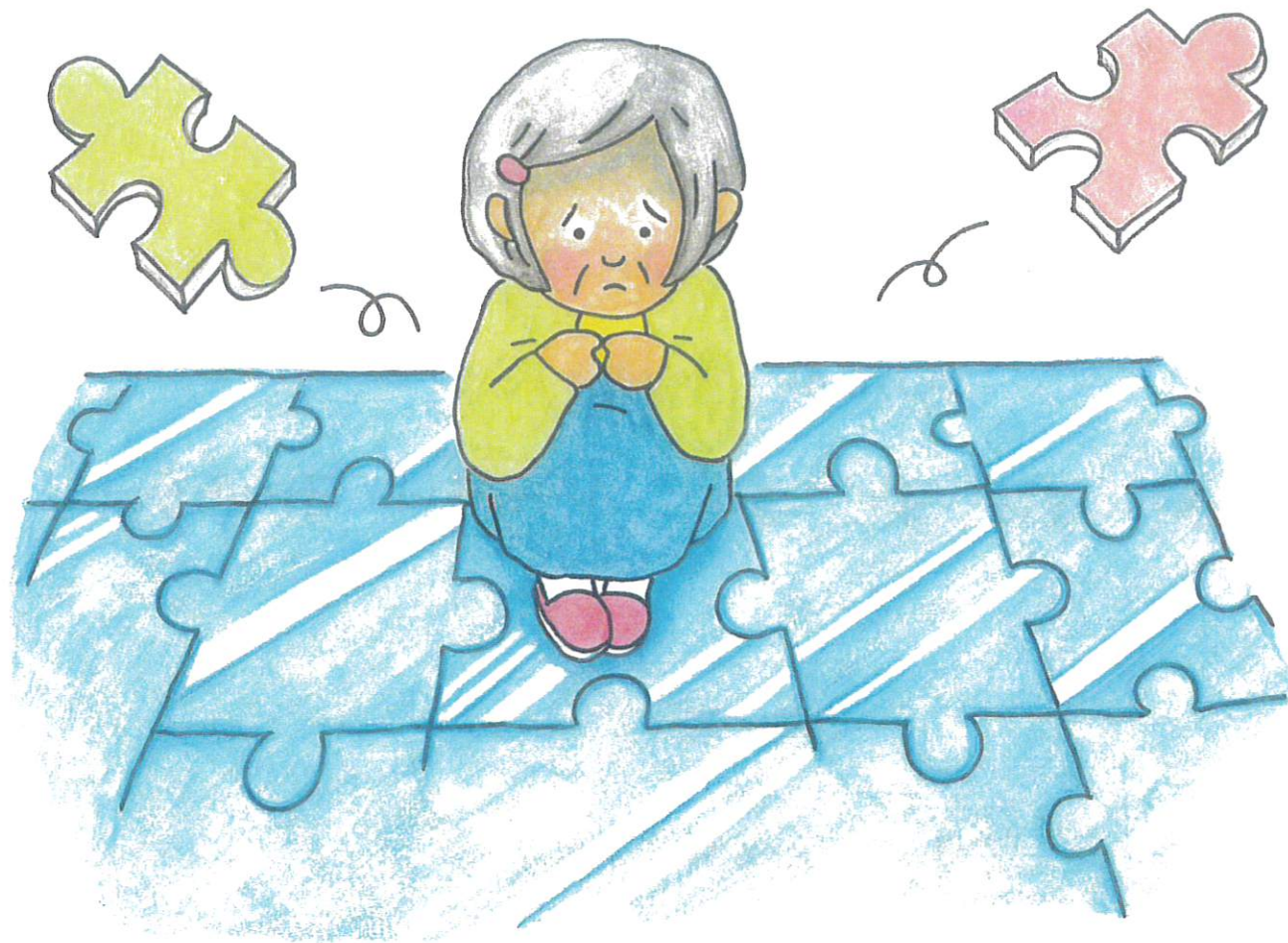
だけど、

なんとなく しなくちゃって

しっしょうけんめい なんです。

あかしくても どうか、わらわないて" ください。

ちからずくて、うばわないて" ください...!!



「わたしのため」

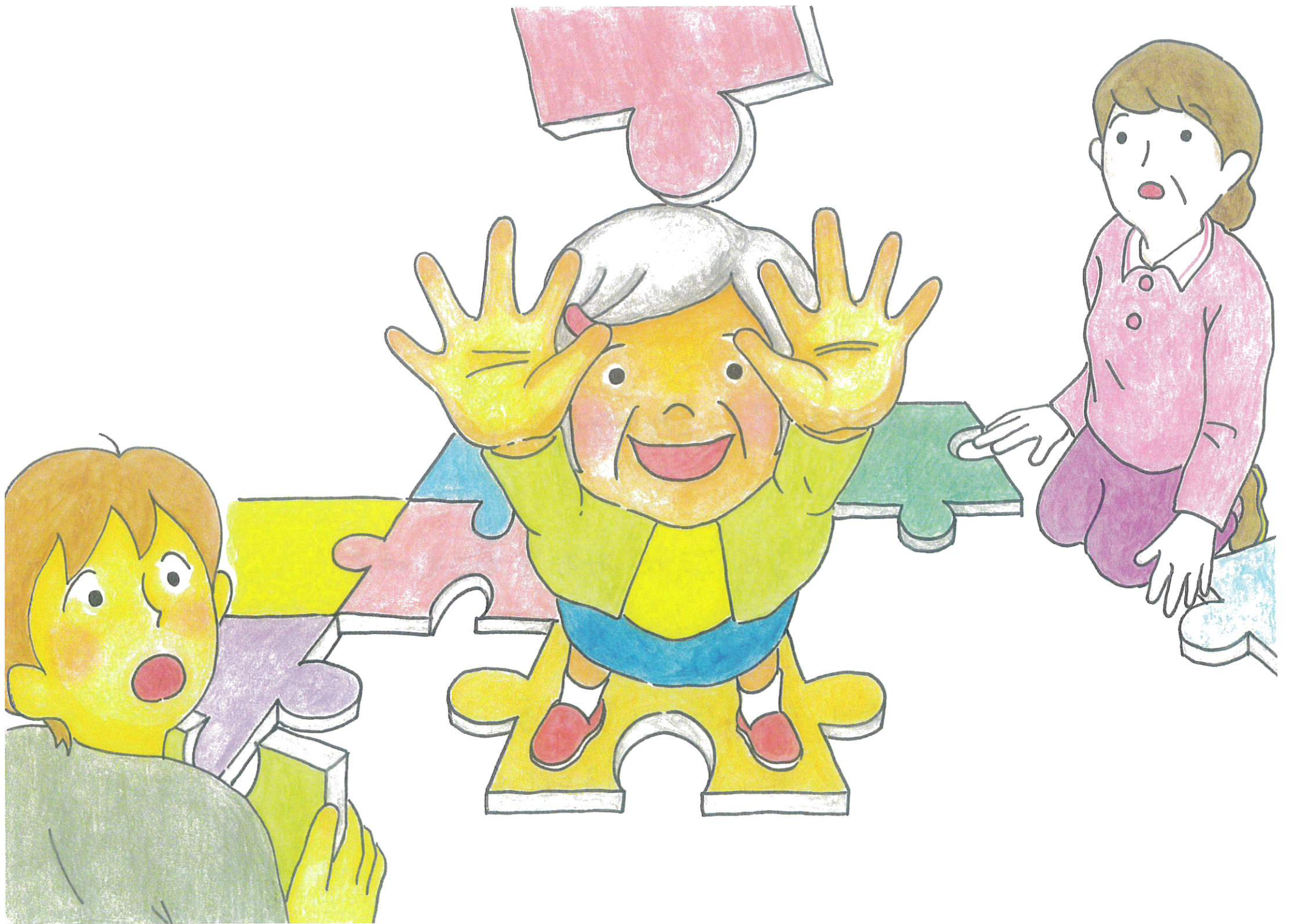
という

やさしいことばで

あなたのための

「あんしん」と「あんぜん」で

うめつくさないでください。



わたしに できること
まだ"まだ" たくさん あります。

わたしが やりたいこと
まだ"まだ" まだ"まだ" いっぱい あります。

すこしだけ
てをかいてくれませんか？

わたしの ちからを しんじてください!!



マル、とか バツ、ではなく
ぴったりでなくても いいんです。

「あれかなあ？ これかなあ？」

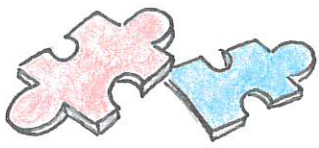
わたしの こころの こえに みみを かたむけて
しっしょに まよったり なやんだり しながら
あるいてくれた こと



ふしぎなことに
わたしはおぼえています。

そのあたたかさを
こちよさを

だから、どうかこれからも
いっしょに ありてください。



あとがき



「あと少しで完成！」というパズルを、ついうっかりバラバラにしてしまったことがあります。
それは、自分のうっかりのせいなのに、苛立ち・焦り・悲しさ・悔しさ… 色々な感情に支配され、
気がつけば” うっかりを埋めようと必死でパズルのピースをかき集めていました。

その時、ふと認知症の人もこんな気持ちなのかも… と思いました。
自分のせいじゃないのに、投げ落ちる記憶や理解力…。こんな瞬間が毎日走っている
のかも。

それなのに、何かかしょうという本人の気持ちを無視して、本人の力をい言じが、私たちは
片手にピースをあてはめたり奪ったりしてないだろうか…？

一方的な「コたえ」が欲しいんじゃない。
ただ、一緒に迷ったり小泣いたり足なみを揃えて歩いていきたいだけ。
「共に生きる」とは、そういうことじゃないかなあと思うのです。
「コたえ」は認知症の人、本人が持っています。
その人の表情やイ草をよく見つめて。たとえ脳の神経細胞が失われても
あたたかい”神経細胞”が豊かに脳裏にあるれている。
そんな想いでこの絵本をかきました。

